

「共生」と「予防」  
の施策を推進

【目指す姿】  
認知症になっても自分らしく安心して暮らせるまちづくり



【社会背景】  
2025年には高齢者の  
5人に1人が認知症に  
なると推計

どんな町にしたい  
か？

- 認知症を理解しているまち
- 認知症を隠さなくていいまち
- 困ったことを相談できるまち
- 本人・家族へよりそえるまち
- 認知症の人が自由に・心配なく出かけられるまち
- 誰もが地域で役割、活躍できる場所があるまち
- 誰にでもやさしいまち
- ～R1「認知症にやさしいまちづくり意見交換会」から～

具体的な施策

一次予防  
～認知症発症を遅らせる取り組み～

二次予防～早期発見・早期対応～  
三次予防～発症後の進行を遅らせる取り組み～

本人の視点に立った認知症バ  
リアフリーの推進

- ①認知症への理解を深めるための普及啓発の推進・本人発信の推進
- ・認知症サポーター養成講座の実施
  - ・認知症予防に関する出前講座等の実施



- ③認知症の人の居場所づくり、認知症の人の介護者への支援
- ・オレンジカフェ 町内5か所
  - ・認知症の家族会（のぞみの会）の開催

- ⑤専門職の認知症対応力の向上
- ・専門職の認知症対応力向上に向けた研修の実施



- ②認知症の容態に応じた適時・適切な医療・介護等の提供
- ・生活習慣病予防・介護予防・社会参加の推進
  - ・認知症の相談窓口の充実・広報
  - ・認知症初期集中支援チームの設置
    - a) 伊那神経科病院チーム設置
    - b) 福祉課チームの設置
  - ・人生の最終段階への啓発
  - ・認知症ガイドブック（ケアパスの普及）
  - ・認知症地域支援推進員の配置 2名

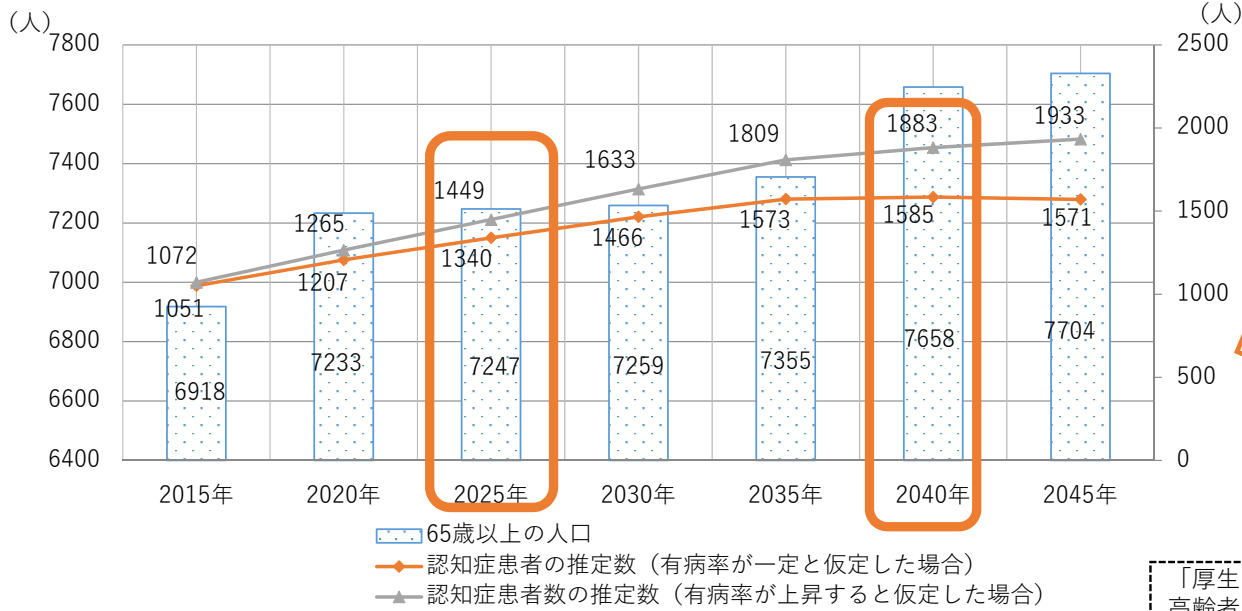
- ④認知症の人を含む高齢者にやさしい地域づくりの推進
- ・すまいるサポート事業（社協委託）  
すまいる登録団体 109 団体
  - あんしん見守りサービス（行方不明者事前登録制度）**
  - （新）認知症高齢者等見守りシール交付事業
  - （新）認知症高齢者等個人賠償責任保険事業

- ⑥認知症バリアフリーの推進・若年性認知症の人への支援・社会参加
- ・本人・家族のニーズと認知症サポーターを中心とした支援を繋ぐ仕組み（チームオレンジの検討）
  - ・成年後見制度の利用促進

介護予防の一体化事業  
医療介護連携の取り組み連携

地域の団体・医療機関・金融機関・民間企業等と連携した地域づくりの推進

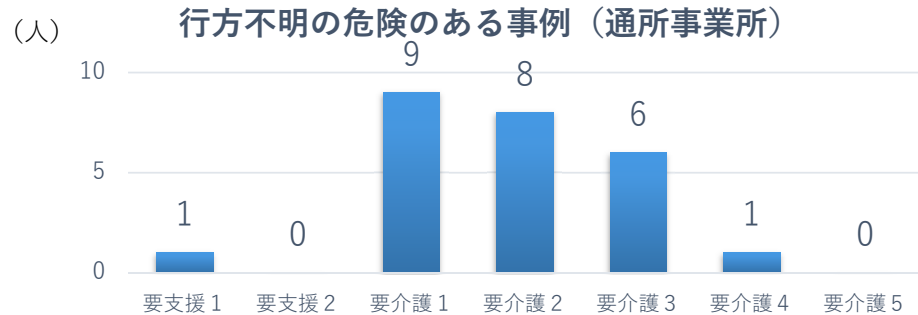
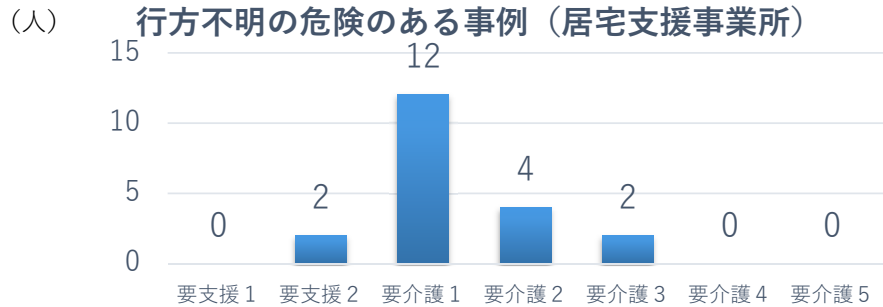
## 認知症高齢者の状況



認知症高齢者の将来推計によると、令和7年（2025年）には高齢者の5人に1人、令和22年（2040）年には4人に1人が認知症を有すると推計されています。

「厚生労働省科学研究費補助金 厚生労働科学特別研究事業 日本における認知症の高齢者人口の将来推計に関する研究（平成27年3月）」（二宮利治ら）を参考に、福祉課作成 ～総合福祉計画から～

## 行方不明の危険のある事例



出典 福祉課調査